

令和5年度 第4回市政モニターアンケート

「文化財保存活用地域計画」について

趣 旨 富士宮市では、地域で一体となって文化財を守り、生かし、伝えるための「文化財保存活用地域計画」の策定に取り組んでいます。
これは、文化財を個別に保存活用するのではなく、周辺の歴史文化資源も含めて地域の文化財の一体的な保存活用を進めるための計画です。
文化財を守るだけでなく、その価値を知ってもらい生かすことで、後世へ引き継げるものと考えています。そのため、課題解決などのアイデアやご意見を市政モニターの皆様に伺います。

※質問の趣旨に沿わない回答については集計結果には反映しません。
アンケートテーマに関すること以外の御意見は「市政モニター提案」を御利用ください。

アンケート実施日 令和6年2月15日(木)～2月29日(木)
アンケート対象者 モニター 50人 うち回答者数43人(回答率86%)

問1 あなたが思う「文化財」とは何ですか。
(複数選択)

選択項目	回答数
1 歴史ある神社や仏閣	42
2 地域に伝わる祭りや伝統芸能	33
3 保存樹木や緑地に生息する生物	18
4 貝塚や集落跡、古墳や城館の址	24
5 仏像や絵画・工芸品	17
6 古文書や古地図	11
7 古い写真や書籍	9
8 明治～戦前までの建造物	13
9 戦争にかかわる遺跡・資料	10
10 戦後～高度成長期の産業の歴史を語る資料	7
11 古い生活道具や農具・漁撈具など生業にかかわる道具	15
12 その他()	

●問2 「文化財」という言葉のイメージは何ですか。
(複数選択)

選択項目	回答数
1 地域の歴史を語るものであり市民共有の宝物	35
2 先祖から受け継いだものであり、未来へ継承していくべきもの	35
3 大切ではあるが、身近に感じない	9
4 厄介で面倒な存在	1
5 古くて暗い、難しいイメージがある	3
6 具体的なイメージをもつことができない	

問3 富士宮市では文化財を守る取り組みをいろいろな方法で進めていますが、知っているものはありますか。(複数選択)

選択項目	回答数
1 指定されている建物や仏像・絵画などの修理・修復の支援	12
2 埋蔵文化財の発掘調査・記録保存と報告書の発行	7
3 遺跡や史跡を保存しながら、価値を周知できるような整備	11
4 天然記念物の樹木などの保存管理の支援	17
5 歩く博物館事業による文化財の周知	13
6 文化財の収集と保管(寄託や寄附による)	3
7 文化財の周知と理解のための展示(郷土資料館)	9
8 文化財防火デーの消防訓練	7
9 伝統文化を継承するための協力	4
10 そうした取組は知らない・関心がない	9

問4 あなたが文化財に接するのはどのような機会ですか。(複数選択)

選択項目	回答数
1 観光旅行	32
2 テレビやラジオの番組	24
3 博物館等の文化施設	20
4 新聞・雑誌	12
5 年中行事などのイベント	16
6 地域で行われる学習会・見学会	5
7 インターネット	8
8 学校の授業や行事	6
9 読書	3
10 関心はあるが機会はありません	5

11 関心も機会もほとんどない	2
12 その他()	

問5 富士宮市の、時代ごとの歴史の特徴や出来事について知っていますか。
(知らない「1」、聞いたことがある「2」、なんとなく知っている「3」、よく知っている「4」)

設問項目	回答欄			
	1	2	3	4
市内には、縄文時代の遺跡が数多く、特に縄文時代の初め頃に人々が定住を始めたことがわかる大鹿窪遺跡は重要である。	19	14	5	5
平安時代に浅間大社や山宮浅間神社が造られた。また、平安時代末には、源平合戦の舞台となった。	22	8	10	3
鎌倉時代、朝霧高原周辺で、源頼朝による巻狩りが実施された。その際、日本3大仇討ちの一つと言われる曾我兄弟の仇討ちが行われた。	8	6	15	13
鎌倉時代末期、日蓮の弟子の日興とその弟子たちによって富士五山が開かれた。富士宮市内には、日蓮宗系のお寺が多くある理由の一つとなっている。	16	11	9	7
戦国時代には、戦国大名である今川・武田・北条氏が富士・富士宮地域の支配権を争った。大宮城(現大宮小学校)では、富士氏と武田軍の戦いが行われた。	31	4	6	2
市内には水が豊富な地域と水が不足する地域があり、水が不足する地域では戦国時代末期に北山用水の整備が進められ、江戸時代以降も多くの用水路が作られた。	27	9	3	4
江戸時代には、富士宮は旧東海道と甲斐の国を結ぶ交通・流通の拠点となっていた。(中道往還、身延道、富士川舟運、塩の道等)	16	14	8	4
明治元年、徳川の武士だった人々が万野原に移り住み、開墾を始めた。	30	4	5	2
戦後、西富士開拓団により朝霧高原が開拓され、今では県下有数の酪農地帯となった。朝霧高原の景観はこの開拓によるところが大きい。	26	7	7	3
富士宮の産業は、明治以降に富士山の湧水等の豊富な水を生かした製紙業・水力発電が始まる一方、水が無くても可能な養蚕、茶生産が行われた。昭和には養鱒、酪農も開始された。	14	16	8	5
富士山を信仰の対象とした歴史・文化がある。 (富士山本宮浅間大社、山宮浅間神社、村山浅間神社、人穴富士講遺跡、白糸ノ滝)	6	10	9	18

問6 別紙の指定文化財一覧以外で、あなたが知っている未来に残したい歴史文化資源を教えてください。

※例 ・古文書(〇〇さん宅にある) ・もの(像、絵、工芸品など)
 ・行事、祭り ・民話、伝承 ・偉人 ・言葉、方言、ことわざ
 ・自然のもの(珍しい形の岩がある等) ・風景、景色
 ・建物 ・食べ物、調理方法

自由記述
虹鱒の養殖による川魚を生で刺身で食べる文化
狩宿の下馬桜
万野原新田の2番堀、3番堀
富士宮やきそば以外にも昔よく食べたものなど
富士宮やきそば

やぶさめ等の伝統的祭りは絶対にやるべき。他の県とかみたいに、戦争時の資料や使われた武器などやその時に使われた生々しいけど衣類とかを飾って、若い人たちとかにもっとわかってもらえるような資料館が必要かと。
行事、祭り
富士宮浅間大社
行事、祭り、風景、建物、食べ物
水越さんのからくり仕掛けの作品
半野ダム
道祖神、猫石、兜石、蛇石 猫石や、兜石にまつわる話
大石寺五重塔、山門など
噴火の跡 富士宮今昔写真
・方言は是非残って欲しい。 ・富士宮市の中でも節分をしない(鬼に豆をなげない)地域もあると聞いたことがあります。そういう話も私は理由まではしらないので残していくと面白いかもしれないです。
昔から住んでいる人の代々受け継がれてきたであろう、着物やお皿などの、大切に残されている日用品
富士山の景観
浅間神社大祭(ヤブサメ等)
方言は残していきたいと思います。
上井出若獅子神社に祀られているサイパン島からの帰還戦車 田貫湖からのダイヤモンド富士 流鏝馬祭(神事)
五輪のかや
富士宮焼きそば
・宮おどり ・景色(岩本山、白尾山公園、白糸公園)
身近な工芸品とか生活に根付いた物
市民の書家作品、絵画作品等
富士山世界遺産センターの近くの学習塾の建物が鳥居から富士山を写真撮ろうとすると邪魔です。 歴史文化資源と言えるかは分かりませんが、猪之頭にある富士養鱒場の風景は美しいと思います。春はカタクリやミツバツツジ、夏には昆虫、秋には紅葉を見ることができます。
柚野の棚田

問7 あなたは市内の文化財について知りたいときに、どこから情報を収集しますか。
(複数選択)

選択項目	回答数
1 テレビやラジオでの広報番組	9

2 民間発行のガイドブック	8
3 市が発行している文化財に関する冊子	16
4 市のホームページ	21
5 市以外が発信しているホームページ	6
6 郷土資料館の展示	13
7 現地や現地近くにある看板・解説板など	10
8 見学会や学習会	2
9 有料のパンフレットや刊行物	0
10 情報収集することが今までなかった	8
11 その他()	2

問8 文化財を保存し継承していくために、あなたが協力できそうなことや考えられそうなことを教えてください。(複数選択)

選択項目	回答数
1 文化財を守る活動(清掃など)への参加	19
2 文化財に関する講座やイベントなどへの参加	18
3 文化財の案内や調査、保存修理などにおけるボランティア	11
4 歴史や文化財を調べたり、研究する	9
5 地域の祭りや伝統行事への参加	20
6 わからない	7
7 ない	1
8 その他()	0

問9 市民が文化財について理解し、保存・活用して未来に継承していくために、富士宮市でどのような課題があると思いますか。(複数選択)

選択項目	回答数
1 歴史文化について知る機会がない。	21
2 歴史文化について知る手段や場所がない。	13
3 歴史文化について、詳しく学ぶ仕組みがない。	12
4 富士宮の歴史文化について、十分な調査ができていない。	5
5 次世代に伝えたくても、次世代の人たちの関心がない。	11
6 保存・管理を行う担い手がいらない。	9
7 保存・管理に費用が掛かる。	17
8 文化財の保存環境が十分でない。	6
9 地域の資源を生かしきれていない。	2
10 昔のことを知っている人が少なくなってきた、伝えられない	12
11 その他()	1

問10 問9の課題を解決するために、どのようなことが必要だと思いますか。
(自由記述)

自由記述
市内の学校教育の中で子供達に教える時間を定期的に設ける事が必要だと思う。
最近問題になってる富士宮にしか栽培されてない伝統野菜を作る農家が減ってしまってるその人達のために後継者と資金援助をして貰いたい。
学校や、PTAの行事などに組み込む。
何をやるにしてもお金がかかるし、残したとしても残す価値のあるものなのかという疑問が残る。最近では、ある特定の人たちが知っていることという感じになってしまっているように感じる。
富士宮に昔からある文化財や伝統は？と聞かれても答えることができませんでした。それを知らなくても生活できているし、困らないからです。文化財など保存、活用する為に市の税金がいくら使われてるか…と言われたら、ちょっと気になるかもしれませんが…。 毎日かせない子供たちの学校や職場で、文化財を守る為の清掃活動に参加しましょう～なんて話が出たらみんな興味を持つのかもしれませぬね。
色々な場所での発信やインターネットでの検索、情報誌等の発行
資料館や分かりやすく、頭に入ってきてやすいような資料などの見せ方。
地域の文化や歴史に関心を持つ人が少なければ、その保存は継承は難しいことですが現実として興味を持つ人の数というのは相対的にはそれほど多くはないし、今後も目に見えて増えることはないと思います。 知識欲を持つ一定数の人達の関心を富士宮市に向けることが必要です。 関心を持つきっかけとしてYoutubeなどで、富士宮市の文化や歴史についてわかりやすく興味を引くような内容の動画が増えれば非常に効果的だと思います。またwikipediaのように、1つのキーワードから枝分かれして多様な事柄について知る機会を得られる仕組みを活用することも効果的です。
歴史文化に関心が向く様な学びの場を準備すると共に積極的に関わりを持つ仕組みを構築する必要があります。その結果、少しでも多くのヒトが興味を持ってくれればいいなと思います。
私自身大人になって他市から転入してきたため、富士宮市の文化財や歴史などを学ぶ機会がなかったため、知らない事が多くある。そういう人も多いと思うので、いま、住んでいる富士宮市の文化財に、まずは興味関心を持てるような、イベントを企画し、子供と共に大人も学んでいけると良いと思いました。
地元民だけの経済力では、保存などの費用は賄いきれない。観光資源として活用することを考えるべきだとも思う。博物館や展示場など費用をかけるより、観光バスや路線バス、宮タク、宮バスなどの路線を、観光客にも利用しやすいように作り、移動しながら楽しく学べるようにすると良いと思う。マップのアプリなどを作るとよいのではないかな。ポケモンゴーのような。また、看板なども、QRコードを利用するなどして、情報量を増やしたり、デザインを統一して見つけやすくするなど工夫した方が良いと思う。観光だけではなく、市の担当分野を縦断して多角的に、効率的に、利用できるように考えてみたら将来から見れば現在は遺産となるのだから良いと良いと思う。
対象町内会に保存、管理を依頼する。市職員は保存状況の定期確認の実施。防災カメラの設置。
多額のお金を使用し、建物等にお金をかけるのではなく今ある物をいかに残して伝えていくのかを検討して欲しい。

みんなに関心を持ってもらうことが1番だと思う。若い人にも、子供にも、こういうものがあるんだよ、すごいんだよ?と、身近に感じられるように、イベントを開催したり、そこで解説をしたり。子供たちが調べたり見学できる学校行事があるといい。
小中学生に学校で歴史文化を学ぶ行事や事業を実施する。富士宮はお祭りでは盛り上がるのでその際に学ぶ機会を作ることはできないか。
小中学校で学ぶ機会はあるけど、その後の学びの機会が少ないと思います。市民文化センターも古くなってますので、郷土資料館も含め整えて欲しいです。
まずは若い世代含めて知ってもらうことが必要だと思います。無関心に関心にするための、活動が必要。イベントを行ったり、保存や管理もボランティアで無く、仕事にしていく必要があるのでは。
歴史の面白さを知って貰えるような(若い人や、もちろん外人さんにも)コンテンツが必要である。 Q6で、豆まきの事を挙げさせてもらいましたがそういうプチネタみたいなのも面白いと個人的には思いました。
テレビやインターネットでもっと、発信する。
市民に文化財の重要性を認知してもらうと同時に大いに興味や関心を持ってもらう活動が重要と考えます。例えば、富士山の場合、入山規制、弾丸登山の規制等により環境への影響を最小限にすると同時に、登山者からは入山料をしっかりと徴収して富士山の環境保全に役立てる。国・山梨県とのより一層の連携強化と行動が重要と思います。
富士宮に住み20年以上たちますが、全ての富士宮文化財がわかる訳で無いので、知ろうとしない限りずっとわからない。子供達は学校で地域の事を知る機会はあるけどそれを親に伝える事は少ない。 公共施設や市役所へ展示とかでも毎日行く訳では無いので。みんなが買い物や毎日行く場所へ情報掲示をして目に入れる機会をまず増やす。
実際に文化財とはどんなものがあるのか、富士宮市の歴史など知る機会がなくそのまま過ごしてしまっているのが多いので皆が興味を持てるようなイベントや遊びながら学べる施設などがあれば手軽に学べ興味をもつ機会も増えそうと思います。
イベントを開催して参加をしながら学べる機会があったら参加したい。 JR東海のさわやかウォーキングのように、予定を決めて、市内各地の歴史文化財巡りをできるようなイベント。
文化財の周辺の整備や管理の補助金制度が必要だと思います。
小学生中学生が社会や総合学習の時間に見学に行ったり勉強する。
文化財の周辺の整備や管理の補助金制度が必要だと思います。
小学生中学生が社会や総合学習の時間に見学に行ったり勉強する。
富士宮市に魅力を感じて貰える物が有れば良いが思い当たるものがない。 子供たちへの課外授業、イベント等を増やして知るきっかけを作る。いかに大切に、守っていくべきモノかを伝えていく。
講座へ気軽に参加できるようなPR
学校でそもそもそう言う授業やってますか？大事に思う先生いらっしゃるんですかね。

令和5年度 第4回市政モニターアンケート

「文化財保存活用地域計画」についての集計結果からの考察

問1 あなたが思う「文化財」とは何ですか。

戦後や現代の資料などは、あまり文化財と認識されていない。

「文化財」と言った時に、国立の博物館にあるものや京都のお寺を思い浮かべる方が多いと思うが、広くは、「人々が生活する長い歴史の中で、生まれ、育まれてきたもの」である。そのうちの一部が法律や条例で「指定」されたもので、指定されていない文化財も私たちのまわりにはたくさんある。今回の選択肢はすべて文化財になり得るものだが、「歴史ある神社や仏閣」と回答した人が42人(97.6%)、「地域に伝わる祭りや伝統芸能」と回答した人が33人(76.7%)、「貝塚や集落跡、古墳や城館の址」と回答した人が24人(55.8%)と多くなっているが、「古い写真や書籍」や「戦後～高度成長期の産業の歴史を語る資料」と回答した人は、それぞれ9人(20.9%)、7人(16.3%)となっており、現代において比較的身近なものについては、文化財との認識がないことがわかった。50年後、100年後にも戦後の文化財を継承し、将来の富士宮市民に富士宮市の歴史文化が伝えられるように取り組んでいく必要を感じた。

問2 「文化財」という言葉のイメージは何ですか。

多くの方が大切なものと感じているが、身近に感じていない方もいる。

文化財を守っていくためには、文化財に対しての市民のイメージを把握し、できるだけ多くの方に御理解いただけるように、様々な事業を行っていく必要がある。「地域の歴史を語るものであり市民共有の宝物」「先祖から受け継いだものであり、未来へ継承していくべきもの」と回答した人が、ともに35人(81.4%)で多くの方が、文化財を守り伝えていくことに理解を示していることがわかった。

「大切ではあるが、身近に感じない」と回答した人が9人(20.9%)であり、身近に感じられる事業が必要だと感じた。

問3 富士宮市では文化財を守る取り組みをいろいろな方法で進めていますが、知っているものはありますか。

未指定の文化財の寄託や寄附については周知されていない。

「天然記念物の樹木などの保存管理の支援」と回答した人が17人(39.5%)で最も多く、次いで「歩く博物館事業による文化財の周知」と回答した人が13人(30.3%)となっているが、「文化財の収集と保管(寄託や寄附による)」と回答した人は3人(7.0%)とわずかで、「そうした取組は知らない・関心がない」と回答した人は9人(20.9%)だった。未指定の文化財も含めて、文化財を把握し適切な環境で保存することは、富士宮の歴史文化を明らかにすることにも繋がるため、これらの取り組みの周知がより必要と考える。

問4 あなたが文化財に接するのはどのような機会ですか。

観光旅行が最も多く、テレビ・ラジオ、博物館、イベントなどが多い。

「観光旅行」と回答した人が32人で(74.4%)、次いで「テレビやラジオの番組」と回答した人が24人(55.8%)で別の興味での行動と一緒に文化財に触れることが多いが、「博物館等の文化施設」と回答した人が20人(46.5%)、「年中行事などのイ

ベント」と回答した人が 16 人 (37.2%) で、自ら文化財に接する機会を作っている人も多くいることがわかった。一方で、「地域で行われる学習会・見学会」と回答した人は 5 人 (11.6%)、「関心はあるが機会はあまりない」と回答した人が 5 人 (11.6%) で、開催の方法や情報の発信など、参加者を増やすような手段を検討する必要があると感じた。

問 5 富士宮市の、時代ごとの歴史の特徴や出来事について知っていますか。

(知らない「1」、聞いたことがある「2」、なんとなく知っている「3」、よく知っている「4」)

富士宮の歴史の特徴や出来事を知らない人が多い。

富士宮市の歴史・文化について、その時々 of 社会の話題などに合わせて、情報を発信してきたが、周知には至っていないことがわかった。各内容を通じて、「知らない」と回答した人が多かった。「知らない」と回答した人が最も多かった内容は「戦国時代の富士宮」で 31 人 (72.1%) だった。次いで「万野原の開墾」と回答した人は 30 人 (69.8%)、「多くの用水路が作られたこと」と回答した人が 27 人 (68.8%)、「朝霧高原の開拓」と回答した人が 26 人 (60.5%) であった。先人たちが、富士宮市で暮らせるように苦労した出来事があまり知られていないことが分かった。一方で、「なんとなく知っている」、「よく知っている」を合わせた「知っている」については、「源頼朝の富士の巻き狩り」と回答した人が 28 人 (65.1%) で最も多く、次いで、世界文化遺産の構成資産でもある「富士山信仰」と回答した人が 27 人 (62.8%) となっており、一定の市民への周知がされていることが分かった。

問 6 あなたが知っている未来に残したい歴史文化資源を教えてください。

食べ物、浅間大社の流鏝馬祭り、風景などが多かった。

現在作成中の「文化財保存活用地域計画」では、指定された文化財だけでなく、地域で大切にしたい歴史文化も対象としているので、市で把握していない歴史・文化を集めるために質問した。富士宮やきそばをはじめとした食べ物や浅間大社のお祭り、また、風景など、どれも富士宮市民として大切にしていきたいものばかりだった。今後、計画策定を進める中で、歴史文化資源のリスト作成や事業を検討する中で参考にしていく。

問 7 あなたは市内の文化財について知りたいときに、どこから情報を収集しますか。

市内の文化財の情報は、市が発信した情報が最も利用されている。

ための質問。

「市のホームページ」と回答した人が 21 人 (48.8%) で最も高く、市が発行している文化財に関する冊子と回答した人が 16 人 (37.2%)、郷土資料館の展示と回答した人が 13 人 (30.2%) となっています。市で発信した情報が多いことがわかった。

歴史文化は、その内容を知ることによって価値や魅力を発見し、より深く知りたいと感じる人が多いと思う。今後の情報発信に役立てていきたい。

問 8 文化財を保存し継承していくために、あなたが協力できそうなことや考えられそうなことを教えてください。

祭りや行事、清掃活動、講座、イベント等への参加が多かった。

「地域の祭りや伝統行事への参加」と回答した人が 20 人 (46.5%)、「文化財を守る活動 (清掃など) への参加」と回答した人が 19 人 (44.2%)、「文化財に関する講座やイベントなどへの参加」と回答した人が 18 人 (41.9%) で何らかの形で協力したいことがわかった。

文化財は、主に所有者と行政で守ることが多い状況だが、「文化財」は地域の宝であることから、市民もともに守っていくという意識を持つことで郷土を愛する気持ちにもつながると考えるため、市民を巻き込みながら保存、継承していく取り組みが必要と考える。

問 9 市民が文化財について理解し、保存・活用して未来に継承していくために、富士宮市でどのような課題があると思いますか。

理解に関しては、知る機会がないこと、保存・活用に関しては、費用や担い手の確保が課題。

文化財について理解いただくためには、まずは知ることが必要。これに関連した回答では「歴史文化について知る機会がない」と回答した人は 21 人 (48.8%)、「歴史文化について知る手段や場所がない」と回答とした人は 13 人 (30.2%)、「歴史文化について、詳しく学ぶ仕組みがない」と回答した人が 12 人 (27.9%)。まずは、知る機会が必要であることがわかった。また、保存活用については、費用の面や担い手の問題のほか、まずは、関心がないという回答が多くあった。

問 10 問 9 の課題を解決するために、どのようなことが必要だと思いますか。

気軽に参加でき、興味を持ってもらえるような事業を行うことと多角的な取り組みが必要。

回答の中で、「興味・関心」という言葉がキーワードであると感じた。多くの方が興味関心を持っていないため、興味を持てる方法として、気軽に参加できるイベント、様々な情報発信などにより、参加しながら学べる、遊びながら学べる機会が必要。

また、小中学校の授業や行事の中で実施する意見が多くあったが、子どもが学んだ内容は親に伝わっておらず、学校で学んだ後は、文化財に関して知る機会がないとの意見があり、中学校卒業後や大人が学ぶ機会の創出が必要。

また、保存には費用がかかるため、観光資源としての活用アイデアやその他の分野も縦断的に多角的に活用する意見があったが、これはまさに、策定に取り組んでいる「文化財保存活用地域計画」の考え方でもあるので、今回いただいた意見を参考に計画の内容を検討していきたい。